

学校名	学校法人岩尾昭和学園 昭和学園高等学校
-----	---------------------

## 平成 29 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

### I 委託事業の内容

#### 1. 研究開発課題名

社会人基礎力を備え、地域社会に貢献できる看護師の育成

ー 5 年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポート ー

#### 2. 研究の目的

社会で看護師として働く為には、基礎学力、専門知識技術とそれらをうまく活用し、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な能力の「社会人基礎力」を育成していくことが必要である。豊かな人間性や基本的な生活習慣は、全ての基盤であり、様々な経験や活動を通して、相互に影響し合いながら高まっていくものである。5 年一貫の看護教育を通して、高校生が主体的に学び、専門性と社会性を身に付け、人間として成長できるよう支援するプログラムを開発する。

#### 3. 実施期間

契約日から平成 30 年 3 月 15 日まで

#### 4. 当該年度における実施計画

地域社会に貢献できる看護師とは、「社会人基礎力」が備わった状態と考える。経済産業省の「社会人基礎力」は、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の 3 つの能力（12 の能力要素）から構成されている。本校では、倫理性を加えた 13 の能力要素の育成を目指す。

この「社会人基礎力」を育成するために、高校課程では「豊かな人間性」と「課題解決能力」の育成を、そして、専攻科ではそれらの能力を活用し継続して健康教育を行うことを通して、地域の健康の保持増進に寄与する能力と態度（「社会参画力」）を育成する。5 年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポートするため、社会人基礎力が備わるための取組みを実施し、評価・修正しながら研究をすすめる。

#### ー育成する人材像／目標ー

- 1) 多様性を理解し、看護倫理・コミュニケーション能力・人権を尊重する態度を育成する。
- 2) 主体的・対話的に深く学び、課題解決につながる思考力と実践力を育成する。
- 3) 地域住民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育成する。

## 豊かな人間性

看護師は、多様な価値観を持った対象者に対応するために、豊かな感性と看護観を持ち、対象に関心を寄せ、積極的に関わる能力が必要である。他者を尊重し、絶えず相手の立場にたって物事を考え行動する等の倫理観を育成し、更に生徒・学生の成長に伴って向上することをねらいとする。また、立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生・異学年との交流や活動を通し、文化や価値観の多様性を理解し、豊かな人間性を養うことをねらいとする。

### <活動の概要>

#### a. 人権教育（1～5年）

1～5年生の各クラスで行う宗教の授業、学校行事である校父母祭法要等を通し生命や死について考える機会とし、自他共に尊重し、自分の人権および他者の人権を守ることができる生徒・学生を育成する。宗教行事を企画運営する宗教科教員と連携して取り組む。また、看護学科で行うナイチンゲール生誕祭を通して、看護師を目指す自分を振り返り意識を高める機会とする。

#### b. 異学年交流（1～5年）

- ① 1～3年縦割りグループによるグループ活動
- ② 1年生が臨地実習前に3年生と交流
- ③ 1年生が5年生の指導を受け1年他クラスへ手洗い指導実施
- ④ 2年生がAPU訪問交流の内容を5年生に報告交流

上記の活動を通し、リーダーシップやメンバーシップを育成する。その結果、チームで働く力（チームワーク）を高めていく。また、自己の目標や果たすべき役割を理解する。

#### c. APU国際学生との交流（2年）

APU訪問やAPU国際学生を本校に招待し交流することを通し、世界に目を向けるきっかけとする。また、国際学生に対して、出来るだけ英語でコミュニケーションを図ることに挑戦させたい。そして、積極的に相手を知ろうとする努力や自分を知ってもらうための工夫ができることを期待する。学生の英語によるコミュニケーション能力を向上させるために、英語科教諭に協力を求め取組んでいく。交流後は、グループ毎に交流の様子や感想を模造紙・スライドにまとめ、国際看護を学ぶ5年生に発表し、学びを共有する。学校に招いた際は校内見学、看護の体験をしてもらい、調理科生徒が実習で作った昼食を提供し一緒に食べるなどして交流する。製菓コースの生徒が製作した菓子を渡す等、他科の生徒も交流に関わってもらう。

### <活動のねらい>

	人権教育	異学年交流	国際学生との交流
1年	「生」と「死」について考え、今を大切に生きることを意識する。自己理解に努める。	相手の意見を丁寧に聴く力及び自分の考えを相手に伝える力を育てる。	

2年	他者理解に努める。また、他者との関わりを通して、自己の振り返りを行い、自己理解を深める。	他者を尊重することの大切さや、自分の考えをわかりやすく他者に伝える力を育てる。	A P U国際学生と交流を図り、世界に目を向けるきっかけとする。また、国際学生の多様な価値観を知り、他者理解に努める。交流した学生の国の医療を調べ学びを深める。
3年	他者を尊重するだけでなく、自分自身も大切にすることができる。	基礎課程の最高学年としてリーダーシップをとり、グループ活動を進めることができる。	
4年	生命誕生から死に至るまでの倫理的問題について考え、自分の考えを表出することができる。	意見の違いや立場の違いを理解し、他者と協力して課題に取り組むことができる。	
5年	臨地実習において、倫理観や看護観に基づいた看護を実践する。	最高学年として、リーダーシップを発揮し、下級生に対してモデル行動を示すことができる。	A P U交流での学びを聞き、多様な文化や価値観を知り、他者を尊重し相手の立場にたった行動ができる。

### 課題解決能力

活動性を高める授業づくりを目指し、看護教科のみならず5教科においても主体的・対話的な学習を行った。全教員を対象にした研修会や教科内討議を設けて生徒が主体的に学ぶ授業に取り組んだ。今年度は、主体的・対話的な学習を継続して行い、さらにICTを活用した授業の実施を浸透させていきたい。教員のICT活用のスキル向上のために、校内研修を行いICT活用に関する認識を高める。また、生徒・学生の自主学習の定着が図れるようICTを活用した事前・事後学習の取組みを検討する。

さらに、入学して間もない時期に初年次教育の一貫として、高校1年生が協同学習について研修を受ける。仲間と共に伸びる、高め合う協同学習について学び、思考力や判断力、表現力を身につけて自らの課題をみつけ課題を解決する力につながることを目指す。

#### <活動の概要>

##### a. 主体的・対話的な深い学び

###### 1) 主体的・対話的な学習の実施（看護学科1～5年）

（協同学習・反転授業・シミュレーションおよびICTを活用した授業の実施を浸透する）

\* ICT活用についての教員研修（2回）・・・新規

###### 2) 研修

###### ① 5月11日（木）

1年生 協同学習（仲間と共に伸びる学び方）／安永 悟先生（久留米大学文学部 教授）

###### ② 11月9日（木）

・本校教員による研究授業（協同学習を取り入れた授業）

・合評会（安永先生より研究授業の講評および教員研修を行う）

b. 特別講義

実習病院や地域で活躍している看護専門職から講義を受けることで、看護の関心を高めて専門的な知識・技術を身に付けることをねらいとする。今年度は、3年生に対して、摂食・嚥下障害看護認定看護師による口腔ケアに関する講義を計画する。

- 1) 1年 ① 7月 看護専門職の話を聴く会（保健師・助産師・認定看護師など）⇒延期の予定
- ② 10月 感染管理認定看護師による特別講義（標準予防策、手指消毒法）
- 2) 2年9月 皮膚・排泄ケア認定看護師による特別講義（皮膚の生理機能をふまえた清潔の援助）
- 3) 3年9月 摂食・嚥下障害看護認定看護師による特別講義（口腔の機能、口腔ケア）・・・新規

<活動のねらい>

	主体的・対話的な深い学び	特別講義
1年	<p>主体的に授業に取り組み、看護を学ぶ楽しさを体験する。演習でタブレットを活用し撮影した内容を視聴して自身の実技を振り返る。</p> <p>協同学習について研修を受け、協同で学ぶ合うことで、学ぶ内容の理解と習得を目指す。仲間とともに学び、お互いに高め合いながら思考力や判断力、表現力を身につける。</p>	<p><b>看護専門職の話を聴く会</b></p> <p>地域で活躍している専門職から話を聞き、看護への関心を高め、自己の目標を明確にする。</p> <p><b>感染看護</b>（標準予防策、手指消毒法）</p> <p>感染管理認定看護師より、皮膚の生理機能をふまえた清潔援助について学ぶ。また、手洗い評価キットを活用して手洗いの方法を見直すことができる。講義後は、正しい手洗い方法を同学年の生徒に説明することができる。</p>
2年	<p>視聴覚教材を活用して事前課題に取り組み、演習を行う。演習では、タブレットを活用し撮影した内容を視聴して自身の実技を振り返る。また、グループワークやクラスで気付きを共有し、自己の課題を知り、学びを深めることを体験する。</p>	<p><b>皮膚・排泄ケア</b></p> <p>皮膚・排泄ケア認定看護師より、皮膚の生理機能をふまえた清潔援助の方法について講義を受け理解を深める。臨地実習で行う清潔ケア（清拭・足浴・手浴）につなげる。</p>
3年	<p>視聴覚教材を活用して事前課題に取り組み、演習を行う。タブレットを活用して看護技術を振り返り、グループワークで自己の課題を知り、課題解決に取り組むことができる。また、事例を通して状況に合った援助を考える。</p>	<p><b>摂食・嚥下</b></p> <p>摂食・嚥下障害看護認定看護師より、口腔の機能、摂食・嚥下のメカニズムについて講義を受け理解を深める。そして、効果的な口腔ケアを学び臨地実習につなげる。</p>
4年	<p>主体的に事前課題や授業に取り組み演習を行う。タブレットを活用して演習を振り返り、課題解決に向けて最善の解決方法を見つけ、取り組むことができる。また、事例を通して優先度をふまえた看護援助を考えることができる。</p>	

5年	主体的に学習に取り組み、状況を判断し対象に適した援助について、既習の知識・技術を活用し課題解決につなげることができる。シミュレーションにおいて、症例に合わせた優先順位を考えて、状況判断してさまざまな問題に対処できる力を養う。	
----	--	--

## 社会参画力

昨年、4・5年生は、「健康ひた21」を推進するために健康教育に取り組み、普段生活する地域に関心を寄せ住民の健康の保持増進に努めた。この活動は、4～5人のグループで約半年間取り組んだ。今年度も継続して健康教育を行い、長期間におよぶ活動を通して発信力、柔軟性、ストレスコントロール力が高まることを目指す。

また、4・5年生においては、学生の表現力を育むために「プレゼンテーション講座」を企画する。

### <活動の概要>

#### a. プレゼンテーション講座（4・5年） … 新規

外部講師を招き、住民に対して健康教育を行う5年生および4年生を対象に効果的なプレゼンテーション技術を学習する。

#### b. 健康教育

昨年に続き特に高齢者の運動について改善するきっかけ作りになることを目指し、ウォーキング等の運動推進を行う。また、昨年は本校生徒・学生・教職員の現状調査で終わったため、今回は運動習慣の改善に取り組む。

##### ①運動に関する講演及び実技指導（3～5年）

大学講師を招き、運動の効果や実技指導を受け、正しい知識を習得する。この内容を踏まえ、自分達も運動を実施した上で、特に4・5年生は健康教育に活かす。

##### ②運動推進活動（4年）

7～10月：ウォーキング体験、動画制作

上記①終了後、日田市が作成したウォーキングマップをもとに学生もグループ毎に歩く。そして、感想などを入れたPR用の動画を制作する。この動画を活用して、住民にウォーキングを推進していく。なお動画は、グループで1本制作する。情報処理担当教諭と連携し、授業の中で撮影方法の説明や動画制作を行う。

11月（完成した動画を地域に向けて発信する前）：発表会

ウォーキングを指導していただいた講師・日田市役所健康保険課・西部保健所・SPH運営指導委員・住民の皆様を招待し、グループで制作した動画の発表会を開催する。学生の発表後、再度、講師による講演及び実技指導を受ける。なお、他学年の聴講は、11月上旬の学園祭の中で行う。

##### ③臨地実習／日田市役所、教育学演習／咸宜大学（日田市高齢者教室）、近隣寺院における健康教育（5年）

対象者から内容の希望がなければ、健康ひた21の高齢期の重点項目である「食」「運動」「こころの健康」に関する内容で実施する。また、昨年自分達が制作した動画も活用して健康教育を行う。

<活動のねらい>

	プレゼンテーション講座	健康教育
4年	対象者の興味をひく発表方法を知り、実践する。	<p>授業を通して、健康ひた21の取組および日田市の現状を知る。(地域への関心を高める)</p> <p>そして、グループごとにウォーキングや運動をすすめるPR動画を制作し、住民に対して発表する。(発表会)</p> <p>動画制作から発表会まで、約半年間継続して取り組むことで、グループ内あるいは教員や発表会参加者に対する発信力を高める。また、途中意見の相違があってもストレスを乗り越え、柔軟に対応して取り組むことを目指す。</p>
5年		<p>半年間の各論実習期間中、グループごとに2～3回健康教育を実施する。健康教育の準備から実施までの活動を通して、グループ内あるいは指導者および教員、参加者に対する発信力を高める。また、途中意見の相違があってもストレスを乗り越え、柔軟に対応して最後まで取り組むことを目指す。</p>

**評価**

1. 習得させたい能力と学年別目標

豊かな人間性			
多様性を理解し、看護倫理・コミュニケーション能力・人権を尊重する態度を育成する。			
	主体性	働きかけ力、コミュニケーション能力	倫理性
	<p>指示待ちではなく自らすべきことを見つけ積極的に取り組む。</p> <p>目標を設定し、確実に行動する。</p> <p>失敗を恐れずに一歩踏み出す。</p>	<p>協力してもらう為に周囲の人を上手に巻き込む。</p> <p>相手の意見を尊重し、周囲と協力しながら取り組む。</p>	<p>絶えず相手の立場に立って対象に不利益や苦痛が生じない様に行動する。</p>
5年	<p>具体的な目標を設定し、確実な計画を立て、必要な人とのを集めて目標達成のために行動する。</p>	<p>2年生や1年生への助言をする際、互いの意見を尊重し協力して発展性のある助言ができる。</p>	<p>相手の立場に立って、対象に不利益や苦痛が生じない様な言動や行動ができる。</p>

4年	来年は最高学年になるという自覚を持って指示待ちではなく、次の行動を考えて準備をする。	生誕祭や校父母祭などで他の見本となるような落ち着いた振る舞いができる。	相手の立場や気持ちを配慮した行動ができる。
3年	3学年縦割り活動の中でリーダーシップをとることができる。失敗を恐れず計画を立て、率先して実行する。	3学年縦割り活動の中で下級生の意見にも耳を傾け、皆が参加できるように調整する。	基礎課程最高学年として相手の立場を尊重した態度を心がける。
2年	APU国際学生と積極的に会話し、日本以外の国の文化の違いやその国の医療について知る。	班での調べ学習や、発表に向けて班で協力して行うことができる。 失敗を恐れず英会話に挑戦する。	相手の言う内容をよく聞き、理解しようと努める。 食や文化の違いも理解する。
1年	異学年交流の中でわからないことや心配な事を上級生に質問したり相談する。	先輩からの意見や助言を素直に聞き入れる事ができる。	宗教の授業で命の大切さについて学ぶ。

<b>課題解決能力</b>			
主体的・対話的に深く学び、課題解決につながる思考力・実践力を育成する。 認定看護師の講義により、専門知識・技術の習得。			
	<b>課題発見力</b>	<b>計画力</b>	<b>創造力</b>
	現状を分析し、課題を明らかにする。	課題解決に向けたプロセスを明らかにし準備することができる。計画的に家庭学習を行う。	新しい価値を生み出す。 何事にも興味を持ち、自分の事として考え、他人任せにしない。
5年	自己の課題を明らかにし、課題解決に向けた最善の解決方法を見出す。	自己の目標を明確にして、目標達成に向けた取組みを計画的に行う。	主体的に授業や課題に取組み、グループ学習や発表の場を通して、自分の考えや意見を他者に堂々と述べる事ができる。
4年	状況を判断し、自己の課題を見出し、課題を解決するための行動がとれる。	目標達成に向け意欲的に学習する。学習計画に沿って取り組むことができる。	リーダーシップを発揮して、何事にも率先して取り組むことができる。
3年	自己を振り返り、自己の課題をみつけ、その課題を解決しようとする行動がとれる。	1年間の学習計画を立て、進級に向けた学習の取組みができる。	主体的に授業に参加して、自分の考えや意見を他者に説明できる。他者と意見交換して討議することができる。
2年	自己を振り返り、自分の不足しているところに気づき、課題をみつける。	主体的に事前課題・予習に取組み、授業に参加する。	他者の意見を聞き（傾聴）、自分の考えを他者に伝える（発表）ことができる。仲間と協力して話し合うことができる。
1年	分からないところを見つけ、他者に伝えることができる。	事前学習・予習の必要性が分かり、授業にのぞむ。	意欲的に授業に参加して、「楽しい」や「分かった」と感じ、看護に興味をもつことができる。

社会参画力			
地域住民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育成する。			
	発信力	柔軟性	ストレスコントロール力
	相手の意見を最後まで聞き、自分の意見をわかりやすく伝える。	自分の意見に固執せずに異なる意見や立場を受け入れる。臨機応変に対応する。	ストレスを自覚し周囲に支援を求め、緩和することができる。 一過性、当然の事と捉え重く受け止め過ぎず、すべきことに取り組む。失敗しても粘り強く取り組む。
5年	時(タイミング)・場・人に柔軟的に合わせて発言する。	状況を把握し、柔軟に行動する。	活動中のストレスについて、自分の成長につながるものにとらえ、最後まで投げ出さずに取り組む。
4年	相手の真意を考えていったん受け止めた上で、自分の考えや気持ちが変わる様に話す。	周囲の意見や助言を受け止め、納得した上で自分の考えや内容を変更していくことができる。	活動中のストレスについて、周囲の人に支援を求めることができる。そして、最後まで活動に取り組む。

## 2. 評価方法及び達成基準

習得させたい能力		評価方法	達成基準
豊かな人間性	主体性	<p>&lt;事業&gt;</p> <p>1～3学年交流会、3学年縦割り活動、1年手洗い指導、APU国際学生との交流会</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>4段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。</p>	<p>主体性に関する4段階の自己評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。</p> <p>感想の中に「積極的にかわれた」「自分から～してみた」等の記述がある。</p>
	働きかけ力 コミュニケーション能力	<p>&lt;事業&gt;</p> <p>1～3学年交流会、3学年縦割り活動、1年手洗い指導5年生助言による、APU国際学生との交流会</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>4段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。</p>	<p>働きかけ力・コミュニケーション能力に関する4段階の自己評価で、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。手洗い指導については事前準備からについても問う。</p> <p>感想の中に「協力して行った」「人の意見を聞いて修正した」等の記述がある。</p>
	倫理性	<p>&lt;事業&gt;</p> <p>①校父母祭②宗教授業③1～3学年交流会④APU国際学生との交流会</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>①自由記載の感想文とし、目標に合致するキーワードの数を1年生と5年生で比較する。</p> <p>②③④4段階の自己評価と、自由記載の感想で目標達成度をアンケート調査する。</p>	<p>①に関しては倫理性に関するキーワードが1年生で5つ以上、5年生で7つ以上が80%以上となる。</p> <p>②③④に関しては倫理性に関する4段階の自己評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。</p>



課題解決能力	課題発見力 計画力 創造力	<p>&lt;事業&gt; 主体的・対話的な深い学び、研修、特別講義</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>①授業アンケート（課題発見力、計画力、創造力）を1・2学期に調査して比較する。</p> <p>②研修・特別講義終了後にアンケート調査（自己評価）を実施する。また、自由記述より、学びや理解度を評価する。</p> <p>③1～3年生に対して、臨地実習終了後、学習した手指消毒、清潔援助、口腔ケアが実践できたか調査（自己評価）する。</p> <p>④生徒・学生の変化について、教員による他者評価を実施する。</p>	<p>①生徒・学生および教員による授業後の評価を4段階で評価し、課題発見力・計画力・創造力について、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。</p> <p>②特別講義の理解度および課題発見力・計画力・創造力について、4段階で評価して「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。</p> <p>また、臨地実習において、学習した手指消毒、清潔援助、口腔ケアが実践できなかった場合は、その理由を明らかにする。</p> <p>③研修後の評価で主体性・協調性についての項目が、4段階で評価し「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を選択した割合が80%以上となる。</p> <p>自由記述で「協同学習の必要性」や「自分で考え、他者に伝える大切さ」等を記入した内容が半数以上となる。</p>
社会参画力	発信力 柔軟性 ストレスコントロール力	<p>&lt;事業&gt; プレゼンテーション講座、健康教育</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>①プレゼンテーション講座終了後、目的および満足度についてアンケート調査（自己評価）する。</p> <p>②健康教育の準備から発表当日までの発信力・柔軟性・ストレスコントロール力についてアンケート調査（自己評価）する。</p> <p>③健康教育の発表を聞いた対象者に対して、発信力を含めた態度や内容についてアンケート調査（他者評価）する。</p> <p>④学年目標の達成度について、中間と終了後の2回アンケート調査する。</p>	<p>①学年目標の達成度、健康教育の自己評価表の中の発信力・柔軟性・ストレスコントロール力の項目について、5（十分できた）・4（だいたいできた）を選択した割合が70%以上となる。</p> <p>②学年目標の1回目評価後、学生の自由記述を分析し、発信力が発揮できなかった場面や理由を明らかにする。</p> <p>2回目評価では、前回発信力が発揮できなかったと評価した学生の50%以上が改善できたと評価する。</p> <p>③健康教育の他者評価の発信力の項目について、5（十分できた）・4（だいたいできた）を選択した割合が70%以上となる。</p>

\* 全体評価

全体的な事業成果は、以下の調査結果で評価する。

- ①文部科学省より提示された「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業における共通的

な評価指標 … 1月に調査予定

②在校生の社会人基礎力調査

社会人基礎力能力要素の自己評価

S P H事業の有効性を検証するために普通科クラスも調査し比較する。 … 5月・12月、2回

③卒業生の社会人基礎力調査（平成28年度3月卒業者）

社会人基礎力の能力要素について、自己評価と他者評価（管理者） … 11月に調査予定

5. 実施体制

※ 企画提案書の記載内容を更新して記載

<研究内容番号>

1. 豊かな人間性	①人権教育（校父母祭、宗教の授業、ナイチンゲール生誕祭）
	②異学年交流
	③A P U国際学生との交流
2. 課題解決能力	①主体的・対話的な深い学び
	②特別講義（専門職の話を聴く会、認定看護師による講義）
3. 社会参画力	①プレゼンテーション講座
	②健康教育

（1）研究担当者

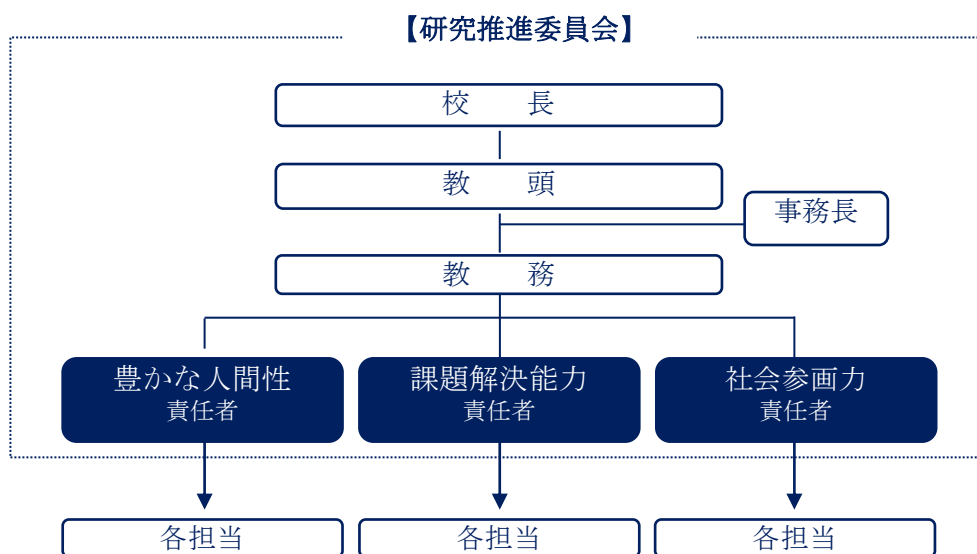
氏 名	職 名	担当教科・役割分担(研究内容番号)
石井 裕子	教 頭	看護、全研究項目の把握・確認
松井 由美	基礎課程主任	看護、2. 課題解決能力班責任者
永楽 真由美	専門課程主任	看護、3. 社会参画力班責任者
佐竹 小桐	教 諭	看護、1. 豊かな人間性班責任者
田代 あさみ	教 諭	看護、2年担任、1
波多江 裕一	教科主任	国語、2年担任、1
栗野 里美	教 諭	保健体育、3年担任、1
五島 忍	教 諭	看護、5年担当、1
高倉 敏之	助教諭	看護、1年担任、2
武内 恵子	助教諭	看護、3年副担任、2
武石 千鶴	教 諭	看護、4年担当、2
梅木 朋恵	助教諭	看護、5年担当、2
武内 和代	助教諭	看護、1年副担任、3
深津 正光	教 諭	保健体育、1年担任、3
大鶴 翔太郎	助教諭	看護、4年担当、3
竹井 日登美	教 諭	看護、5年担当、3
中川 智法	教科主任	宗教、3年福祉科担任、1
齋藤 貴志	教科主任	地歴公民、3年担任、2

椋園 亨	教科主任	数学、生徒指導主任、2
田邊 葉子	教科主任	英語、3年普通科担任、2
五島 英司	教科主任	理科、3年普通科副担任、2
宇野 真悟	教科主任	情報、3年普通科担任、3
穴井 征樹	事務	高校事務、経理事務
大津 明美	事務	専門課程事務、経理事務

(2) 研究推進委員会

氏名	職名	担当教科・役割分担(研究内容番号)
山本 省悟	校長	S P H事業を総括
岡崎 浩晴	教頭	理科、校長の補佐、各研究担当教員に指導・助言
石井 裕子	教頭	看護、全研究項目の把握・確認
相良 明弘	事務長	経理事務の責任者
草野 浩輔	理事長補佐	地歴公民、広報
長木 武士	教務主任	理科、2
五島 英司	特別活動主任	理科、青少年赤十字顧問、2
平 善浩	キャリアガイダンス主任	国語、3
春末 聡	庶務主任	宗教・国語、1
日野 浩太郎	広報主任	福祉、記録・広報
立花 圭	1学年主任	英語、1
石橋 健一郎	2学年主任	英語、1
吉住 和恵	3学年主任	理科、2
佐竹 小桐	教諭	看護、1. 豊かな人間性班責任者
松井 由美	基礎課程主任	看護、2. 課題解決能力班責任者
永楽 真由美	専門課程主任	看護、3. 社会参画力班責任者

(3) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

研究内容		実施時期											
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
豊かな人間性	全学年	宗教の授業(1~3年は4~2月、4・5年は4~11月)											
	1年	ナイチンゲール生誕祭	縦割り活動			異学年交流 実習について			校父母祭法要・記念講演	異学年交流 手洗い指導	縦割り活動		
	2年			大学連携 APU交流			大学連携 異学年交流 APU交流 5年発表						
	3年				異学年交流 実習について								
	4年												
	5年									異学年交流 2年発表聴講 1年指導			
課題解決能力	全学年	主体的・対話的な深い学び											
	1年	大学連携 協同学習		病院連携 専門職の話				病院連携 感染・演習	大学連携 協同学習	<b>地域・実習施設と連携</b> 1年9月老人福祉施設実習 2年10月病院実習 3年6月こども園実習 7~8月病院実習 11月老人福祉施設実習 4年2月病院実習 5年6~11月 病院実習 訪問看護ステーション実習 市役所実習			
	2年				病院連携 清潔・演習								
	3年				病院連携 口腔ケア・演習								
	4年												
	5年												
社会参画力	全学年	運動習慣の改善											
	1年	社会人調査							社会人調査				
	2年		講演及び 実技指導						地域・大学 連携 4年発表聴講				
	3年								地域・大学 連携 4年発表聴講				
	4年	講演及び 実技指導			運動推進活動					地域・大学 連携 発表			
	5年	講演及び 実技指導		地域連携 健康教育				地域連携 健康教育					

※ 実施の時期は事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

( ) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載